

目 次

1. まえがき	1
2. 結果の分析	
基礎・共通および資格関係	2
音楽学部	5
人文学部	1 1
人間発達学部	1 5
グループ平均一覧	2 0
レーダーチャート	2 2
3. 学生による授業評価アンケートの調査結果及び教員によるコメント	2 5
4. 資料	2 2 2

まえがき

同じ質問項目を用い、同じ時期（12月）に、同じ科目選択方式（各教員の担当授業のうち、必修科目、選択必修科目または受講者数のできるだけ多い科目1クラスを対象）で実施するアンケートも3年目になり、今年度が最後です。そのため、FD委員会による結果の分析は、評価の経年変化を見ることに主眼を置きました。また、これまで同様、5名以上の回答があった場合は集計結果を各担当者に返却し、アンケート結果に対する意見および改善方法などを記したリフレクション・ペーパーを作成していただきました。ご協力ありがとうございました。

本アンケートの目的は第一に、各教員が、現在の本学学生に適するよう授業形態や学習指導法を改善するのに必要な情報を得ることにあります。先生方がアンケート結果を真摯に受け止め、授業改善に活かしていただければ幸いです。また、FD委員会において、これまでと同様に学科別や科目群別などの集計や分析を行い、質問項目間の関連を見る分析も試みました。さらに、図表を用いた表示を統一するなど、報告の読みやすさにも配慮しました。それらにつきましては、次ページ以降の学部・部門別の分析をご覧ください。

なお、この授業アンケートは、修正を加えつつ、次年度以降も実施していく所存です。これまでは、アンケートを設計し結果を十分に分析できる専門家がいなかったため、各先生方に担当科目に関する授業改善の参考資料を提供するだけで精一杯でした。しかし、教員個々の努力には限度があります。より一層の授業改善には組織的な取り組みが必要と思われます。来年度以降、そのための基礎データが得られるようなアンケートや分析の方法を工夫していきたいと思います。なお、来年度は5年ぶりに前期と後期にアンケートを実施する予定ですので、いっそうのご協力をお願いいたします。

2014年3月1日

相愛大学FD委員会

江草浩幸

中村圭爾

川中美津子

砂田和道

橋元淳一郎

太田美穂

藤永慎一

土井純三

谷川由紀

授業アンケート結果の分析（基礎・共通および資格関係）

1. 評価の変化

同じカリキュラム、同じ質問項目でのアンケートも3年目であり、この間の評価の経年変化を概観してみる。

【基礎・共通科目】 図1から明らかなように、この3年間、評価値にほとんど変化は見られない。すなわち、基礎・共通科目全体としては 全く改善がなされていない ことになる。その理由としては様々可能性が考えられるが、授業アンケートのデータだけでは結論を引き出すことができない。なお、あえて表1から評価値の上昇が比較的大きい（0.1以上）項目を拾い上げてみると、質問1（休まず出席している）になる。ただし、統計学的に意味があるかどうかは疑わしい。また、質問項目間の評価値の相対的順位もほとんど変わっていない。

【資格関係科目】 図2に見られるとおり、こちらについては 芳しくない変化が現れた。すなわち、昨年度は一昨年度に比べて14項目中11項目で評価値が上昇したが、今年度は昨年度に比べて14項目中12項目で低下した。しかも、そのうちの10項目では一昨年度より評価が低い。ただ、このように評価が低下した理由は、アンケート結果だけではわからない。

なお、質問1（授業への出席）については、両科目群とも評価値が上昇している。この理由としては出席確認の厳格化が考えられる。

2. 質問項目間の関連性

授業に対する満足度（質問14）と関連が深い要因を探すために、回答者数6名以上の基礎・共通36科目について、質問14を目的変数とし、他の13項目を説明変数とする重回帰分析を試みた。ただし、サンプル数の少なさや説明変数間の相関（多重共線性）の問題があるため、分析結果はあまり確かなものとは言えず、あくまで「試し」と理解いただきたい。

重相関係数は0.97であり、分散分析の結果からも重回帰式の予測力は統計的に1%水準で有意であった。そして、標準偏回帰係数が5%または1%水準で統計的に有意であったのは質問1（出席の程度：この評価値が高いと満足度は低い傾向）、質問5（教員の熱意：この評価値が高いと満足度も高い傾向）、質問12（興味深さ：この評価値が高いと満足度も高い傾向）。また、質問13の標準偏回帰係数が10%水準で有意であった（理解しやすさ：この評価値が高いと満足度も高い傾向）。このうち、質問5、12、13と満足度との関係は理解しやすい。しかし、質問1の結果は、まじめに出席するほど授業に対する満足度が下がることを意味するが、解釈は慎重でなければならない。

3. 科目の区分や受講者数と評価との関連性

回答者数 6 名以上の基礎・共通科目群に関して過去 2 回と同様の分析を試みた。

昨年度、一昨年度と一部異なる 36 科目に関する 回答者数（受講者数）と授業の興味深さ、理解しやすさ、満足度との相関係数は、過去 2 回と同様、いずれもマイナスの値になった（-0.30、-0.30、-0.30）。また、性質の似た 7 の一般講義科目について相関係数を計算したところ、昨年同様マイナスの値（-0.39、-0.57、-0.40）になった。演習系の 22 科目についても同様であった（-0.33、-0.44、-0.45）。したがって、他の要因の影響を排除できているわけではないが、受講者数が多いほど評価が下がるという傾向は一貫している と言えよう。

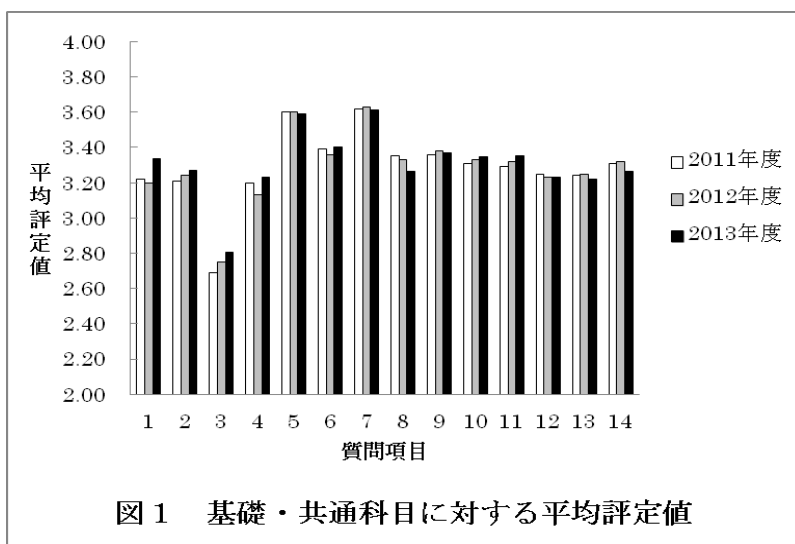


図1 基礎・共通科目に対する平均評定値

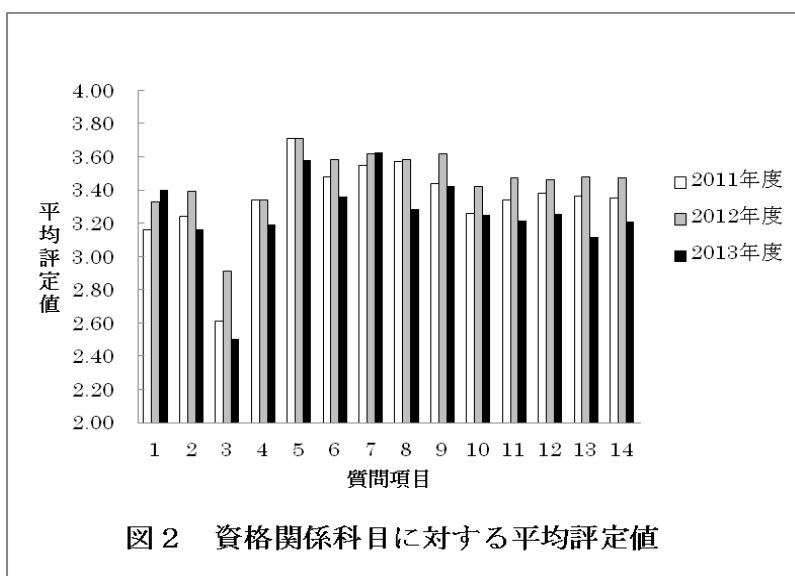


図2 資格関係科目に対する平均評定値

表1 共通教育センター提供科目に対する平均評価値

項目番号	質 問 内 容	基礎・共通科目			資格関係科目		
		2011 年度	2012 年度	2013 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度
1	私は休まず授業に出席している。	3.22	3.20	3.34	3.16	3.33	3.40
2	私はこの授業に熱心に取り組んでいる。	3.21	3.24	3.27	3.24	3.39	3.16
3	私は講義要項（シラバス）をきちんと読んだ。	2.69	2.75	2.80	2.61	2.91	2.51
4	私はこの授業の目的を理解している。	3.20	3.13	3.23	3.34	3.34	3.19
5	担当教員は熱意を持って授業している。	3.60	3.60	3.59	3.71	3.71	3.58
6	担当教員の話し方はわかりやすい。	3.39	3.36	3.40	3.48	3.58	3.36
7	担当教員は授業時間を守っている。	3.62	3.63	3.61	3.55	3.62	3.63
8	担当教員は学生主体の授業にしようとしている。	3.35	3.33	3.26	3.57	3.58	3.29
9	板書、プリントやパワーポイント、視聴覚教材が効果的に用いられている。	3.36	3.38	3.37	3.44	3.62	3.42
10	授業は講義要項（シラバス）に基づいて実行されている。	3.31	3.33	3.35	3.26	3.42	3.25
11	成績の評価基準が明瞭に示されている。	3.29	3.32	3.35	3.34	3.47	3.21
12	授業の内容は興味深い。	3.25	3.23	3.23	3.38	3.46	3.25
13	授業の内容は理解しやすい。	3.24	3.25	3.22	3.36	3.48	3.12
14	この授業に満足している。	3.31	3.32	3.27	3.35	3.47	3.21
全項目の平均値		3.29	3.29	3.31	3.34	3.46	3.26

（文責 江草 浩幸）

授業評価アンケート結果の分析（音楽学部）

1. はじめに

一昨年度から 3 年連続で開始した授業評価アンケートも今年度が最終年度である。前回、前々回同様の設問で学生から回答を得た。全学の授業形態にくらべ音楽学部の特異な点は、音楽学科に個別指導の実技系レッスンが存在することである。この伝統的教授スタイルが音楽学部の気質といった教育文化を形成している。一方、音楽マネジメント学科はこの点において例外で同質とはいえない。よって音楽学部には二つの教育文化が存在している。では今年度の調査結果だが、全体の平均値は音楽学科が 3.63 となり、昨年度の 3.39 からポイントは改善された。音楽マネジメント学科は 3.34 で昨年の 3.27 からポイントは微増であった。そして、3 年間の経年変化については表 1、2 と図 1、2 を参照されたい。これら図表に目を向けると 3 年間の評価値（ポイント）にはほとんど変化がみられない。このことについて考えられる点を後述したい。

2. 考察

2-1 留意点

昨年同様に考察する際に次の点を留めておきたい。

- ①音楽学科と音楽マネジメント学科の差異は、早期専門教育を受けて入学した音楽学科学生と、それとは異なる音楽マネジメント学科学生が存在すること
- ②学習領域に対するビジョンは、音楽学科学生は音楽マネジメント学科学生より明確であること
- ③学習領域は、音楽学科が音楽領域に特化されているのにくらべ、音楽マネジメント学科は横断的な領域（音楽・IT・経営）で広範囲なため、各分野の授業は「広く浅く」であること
- ④音楽学科は伝統的な対面教育による教授スタイルであるが、音楽マネジメント学科は集団に対する講義形式の教授スタイルであること
- ⑤音楽マネジメント学科入学者の学力、学習意欲が、毎年向上していること
- ⑥音楽マネジメント学科の 1 年生、2 年生は学力差が多様で、中上位レベルの学生に満足な授業を提供できていないこと

2-2 音楽学部の各学科の傾向

音楽学科の講義系授業は、全ての質問項目において昨年より改善されている。また、専攻別の実技系授業も多く専攻において改善されている（表 2）。一方、音楽マネジメント学科には特出すべき点は見られない。ただし、両学科とも傾向が表れている点は、「履修者数の少ない授業は評価値が高く、人数の多い授業

の評価値は低い」という状況が見受けられる。例えば音楽学科の実技系授業（レッスン）において、同一教員の「専攻（主科）」と「副科」のレッスンでは、履修者数の多い「副科」の評価値は低い例がある。これは回答から個人を特定できる、できないという実態が存在し回答傾向を左右しているのではないか。また、音楽マネジメント学科においても、履修者数の少ない授業は評価値が高く、人数の多い授業は評価値が低い状況もある。よって、少人数教育の実態把握を試みる場合、調査方法を再考する必要があるだろう。

2-3 満足度に影響する要因

音楽学科の学生による評価値が、他学部他学科より高いことは全学において既知のことである。これは音楽学科の教育文化として対面教育による個別指導で、習熟度学習を具現化しているためである。音楽学科では、学生は表現活動において常に評価されており、各自の実力が可視化され日々の自己努力を必要としている。これは教授する側の教員もまた、教授能力が可視化され、常に評価を受けていることになる。よって自ずと熱心に習熟度に沿った教授となる。それらは表 1、表 2 で認めることができる。それに比べ音楽マネジメント学科では気になる評価値が「問 1」に表れている。これは授業への出席に対しての回答である。この数値を裏付ける学生からの言葉として、「授業は最低限の出席にしている」「授業内容を諦めている」といった内容の発言を耳にすることがある。これについては音楽マネジメント学科教員の個々の授業における質的改善を求めるとともに、学科カリキュラムの構造的失陥に対する改善を学科内外で検討する必要がある、音楽学部の学科としてのビジョンを問いたい。

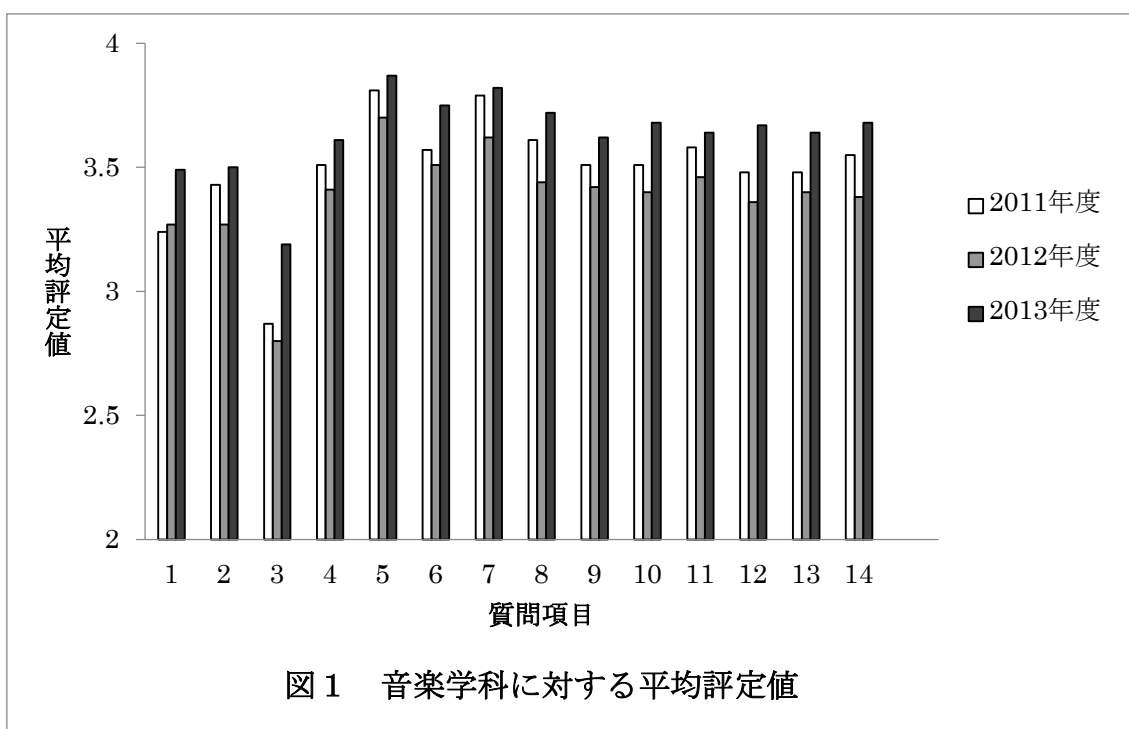
3. 3 年間の調査を振り返って

筆者の本調査の分析作業は昨年からであり、今回で 2 回目である。3 年間の俯瞰してみると、評価値の変化はあまり見当たらない。本調査で認められる音楽学部の状況は次の点である。

- ①対面教育による個別指導の優位性
- ②目的意識があって入学する音楽学科学生と、事情の違う音楽マネジメント学科学生の状況
- ③個人が特定できる対面教育であるがために実際に把握しづらい調査結果

このような点を見受けられる。しかし、調査結果を受けて改善を模索するにあたり、そのヒントとなるデータを本調査から得ることは難しい。つまり定量評価より「定性評価」が必要であり、特に少人数教育を行っている音楽学科、

音楽マネジメント学科では、学生からのコメントが必要であろう。実際、学生からは本調査について、各質問においてコメント欄が欲しかったとの発言を得ている。数値による回答より質的回答を行いたいそうだ。そして教員も評価値を、そのまま受け入れるにはし難い状況もあるだろう。回答には様々な因果関係が背景にあり、数値結果だけでは改善点を見出せないこともあるからだ。よって、音楽学部は同質の調査を継続する必要があるか慎重に検討する余地があるだろう。



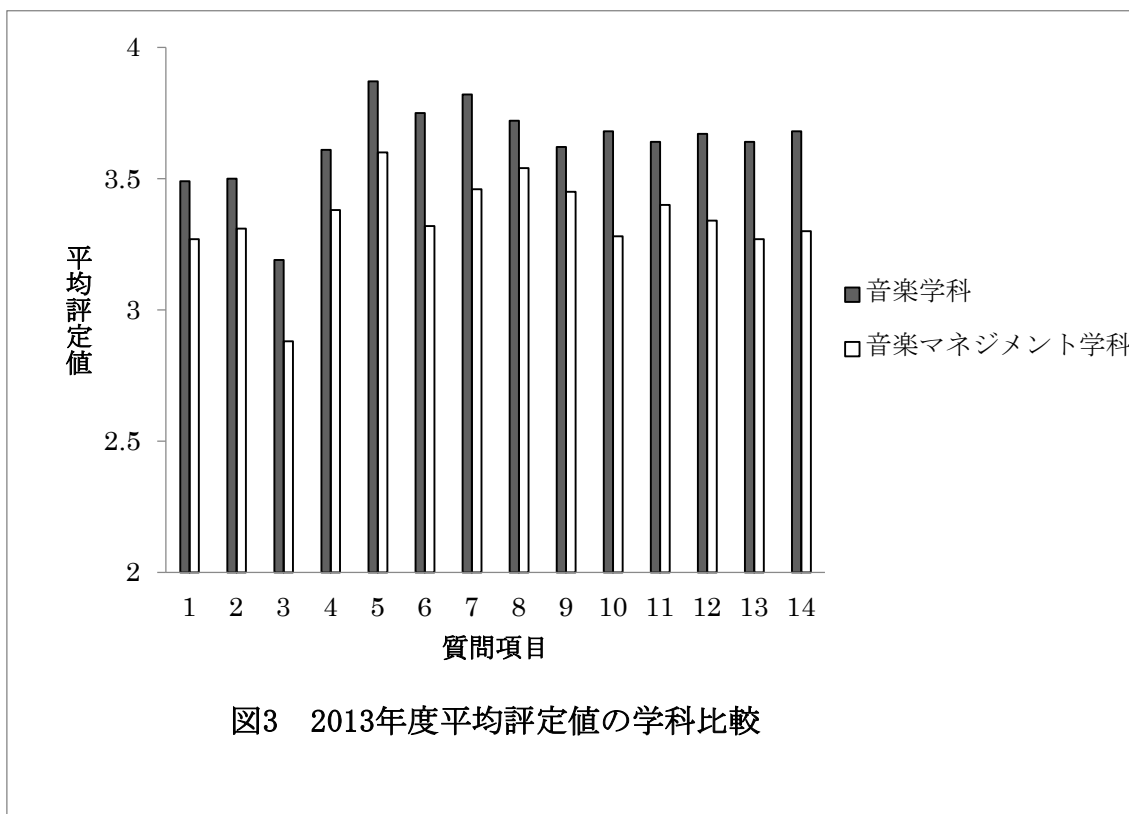
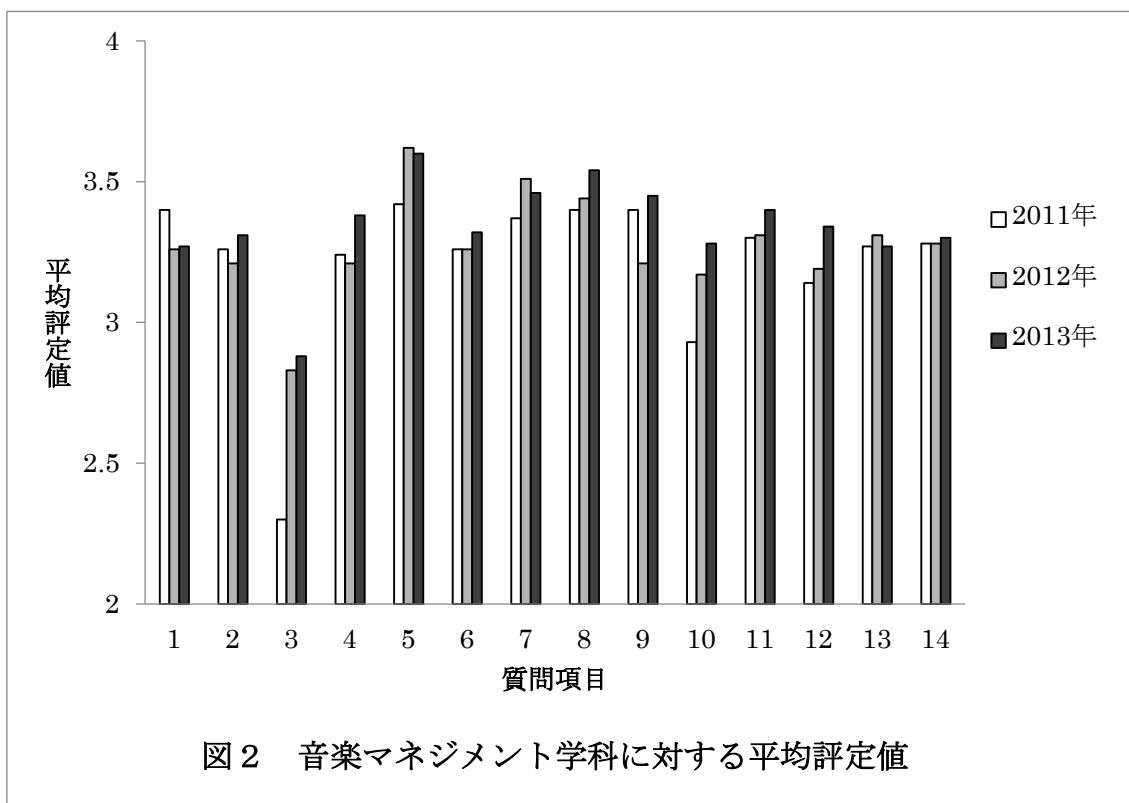


表1 学科別の平均評定値

		音楽学科			音楽マネジメント学科		
問	質 問 内 容	2011年	2012年	2013年	2011年	2012年	2013年
1	私は休まず授業に出席している。	3.24	3.27	3.49	3.4	3.26	3.27
2	私はこの授業に熱心に取り組んでいる。	3.43	3.27	3.5	3.26	3.21	3.31
3	私は講義要項（シラバス）をきちんと読んだ。	2.87	2.8	3.19	2.3	2.83	2.88
4	私はこの授業の目的を理解している。	3.51	3.41	3.61	3.24	3.21	3.38
5	担当教員は熱意を持って授業している。	3.81	3.7	3.87	3.42	3.62	3.6
6	担当教員の話し方はわかりやすい。	3.57	3.51	3.75	3.26	3.26	3.32
7	担当教員は授業時間を守っている。	3.79	3.62	3.82	3.37	3.51	3.46
8	担当教員は学生主体の授業にしようとしている。	3.61	3.44	3.72	3.4	3.44	3.54
9	板書、プリントやパワーポイント、視聴覚教材が効果的に用いられている。	3.51	3.42	3.62	3.4	3.21	3.45
10	授業は講義要項（シラバス）に基づいて実行されている。	3.51	3.4	3.68	2.93	3.17	3.28
11	授業の内容は興味深い。	3.58	3.46	3.64	3.3	3.31	3.4
12	授業の内容は理解しやすい。	3.48	3.36	3.67	3.14	3.19	3.34
13	成績の評価基準が明瞭に示されている。	3.48	3.4	3.64	3.27	3.31	3.27
14	この授業に満足している。	3.55	3.38	3.68	3.28	3.28	3.3
	(平均値)	3.5	3.39	3.63	3.21	3.27	3.34

表2 専攻別の平均評定値

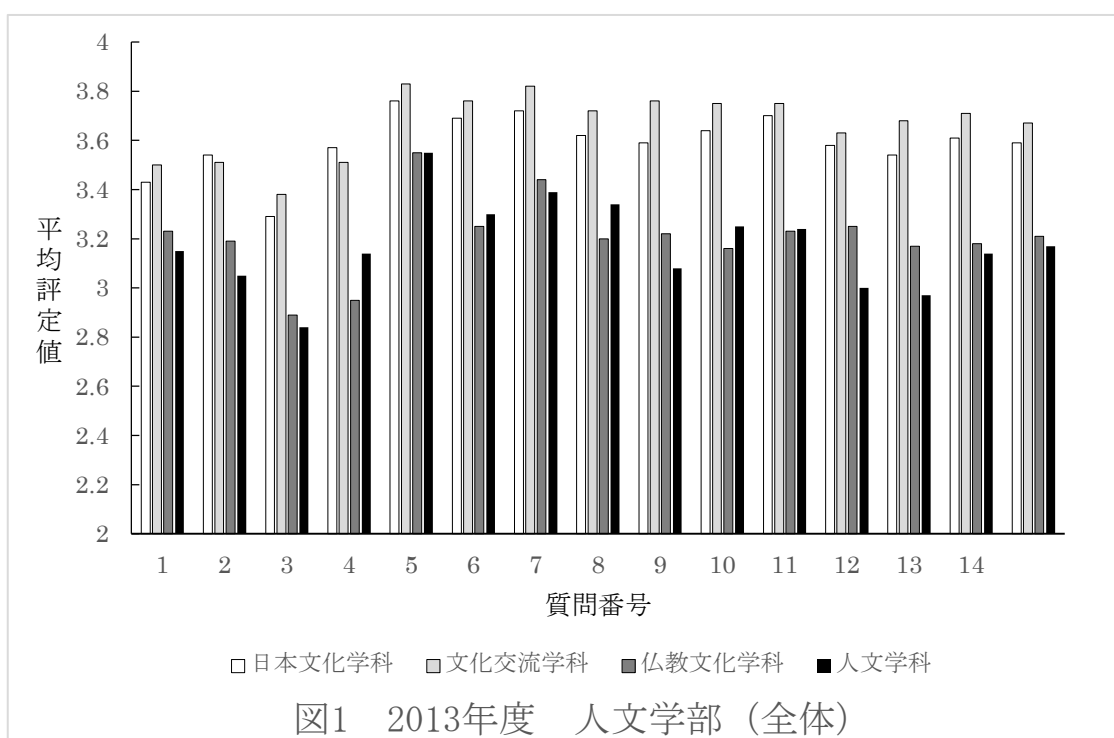
問	質 問 内 容	声 楽			ピアノ			創作演奏			オルガン			管弦打			古 楽			作曲			第Ⅲ群	
		2011年	2012年	2013年	2011年	2012年	2013年	2011年	2012年	2013年	2011年	2012年	2013年	2011年	2012年	2013年	2011年	2012年	2013年	2011年	2012年	2013年	2013年	2013年
1	私は休まず授業に出席している。	3.41	3.58	3.64	3.81	3.71	3.86	3.53	3.48	3.62	4.00	4.00	3.00	3.90	3.91	3.85	3.57	3.33	3	4	3.5	3.57	3.51	
2	私は遅刻をせずに出席をしている。	3.86	3.88	3.89	3.94	3.86	3.96	3.87	3.89	3.92	3.50	3.50	3.00	3.96	3.98	3.93	3.29	3.00	3	4	3.5	3.71	3.81	
3	私はレッスンに熱心に取り組んでいる。	3.82	3.75	4.00	3.96	3.90	3.84	3.80	3.74	3.92	3.50	4.00	4.00	3.90	3.88	3.91	3.29	3.67	3	4	3.88	3.43	3.67	
4	私はレッスンの準備（譜読み・練習等）を十分にしている。	3.27	3.46	3.64	3.52	3.53	3.47	3.20	3.15	3.31	3.50	3.00	3.00	3.54	3.53	3.35	2.57	3.33	2.5	4	3.5	3.43	3.15	
5	レッスンの進修は技術や理解度に合わせ て適切である。	3.86	3.92	4.00	3.94	3.96	3.96	3.93	4.00	3.85	3.50	3.50	4.00	3.98	3.94	3.92	3.57	4.00	4	4	3.88	3.71	3.86	
6	このレッスンの教材は自分にとって適切 である。	3.91	3.88	4.00	3.96	3.92	3.94	3.87	3.93	3.85	4.00	4.00	4.00	3.97	3.92	3.91	3.43	4.00	4	4	3.88	3.86	3.86	
7	担当教員の話し方や態度は適切である。	3.82	3.88	4.00	3.94	3.88	3.94	3.80	3.96	3.77	4.00	4.00	4.00	3.98	3.96	3.95	3.57	4.00	4	4	4	3.71	3.88	
8	担当教員の熱意や真実さが感じられる。	3.86	3.88	4.00	3.92	3.90	4.00	3.80	3.93	3.77	3.50	3.00	4.00	3.91	3.91	3.97	3.57	4.00	4	4	3.75	3.71	3.91	
9	担当教員は授業回数や時間をきちんと 守っている。	3.91	3.92	3.93	3.98	3.94	3.98	4.00	3.96	3.69	4.00	4.00	4.00	3.98	3.97	3.85	3.86	4.00	4	4	3.75	3.86	3.91	
10	担当教員は、休講に対する補講を適切に 行っている。	3.95	3.96	3.93	3.96	3.94	3.98	4.00	4.00	3.85	4.00	4.00	4.00	4.00	3.99	3.83	4.00	4.00	4	4	4	3.86	3.86	
11	このレッスンで意欲が向上している。	3.91	3.79	4.00	3.90	3.90	3.96	4.00	3.93	3.69	4.00	4.00	4.00	3.90	3.89	3.94	4.00	4.00	4	4	3.88	3.86	3.78	
12	担当教員とのあいだに信頼関係ができて いる。	3.86	3.75	3.96	3.96	3.96	3.92	4.00	4.00	3.77	4.00	4.00	4.00	3.84	3.87	3.86	4.00	4.00	4	4	3.75	3.86	3.72	
	(平均値)	3.79	3.80	3.92	3.90	3.87	3.90	3.80	3.83	3.75	3.79	3.75	3.75	3.91	3.89	3.85	3.56	3.78	3.63	4	3.77	3.71	3.75	

授業評価アンケート結果の分析（人文学部）

はじめに

人文学部は改編の最中にあり、平成 25 年度は人文学科（1 回生のみ）、日本文化、仏教文化、文化交流、人間心理、社会デザインの 6 学科が併存している。この複雑な状況においてサンプル数の少ない調査の分析に統計的有意性を求めることは困難であるので、25 年度で閉鎖する人間心理と社会デザインの 2 学科を除いた 4 学科について分析を行うこととした。

1. 人文学部全体および学科別の特徴



質問間の相関を見るため重回帰分析を行ったが、学科別では有意な結果を得るのが難しいため、人文学部全体を対象とし、回答数が 6 以上の 29 科目について分析した。

その結果、5 パーセント水準で統計的に有意な標準偏回帰係数が得られたのは、質問 4「私はこの授業の目的を理解している」、質問 5「担当教員は熱意を持って授業をしている」および質問 13「授業の内容は理解しやすい」の 3 項目で、いずれもその評価値が高いと満足度（質問 14「この授業に満足している」）も高いという明らかな傾向が見られた。また有意水準を 10 パーセントに取ると質問 1「私は休まず授業に出席している」、質問 2「私はこの授業に熱心に取り組んでいる」もまた満足度と相関していることが分かった。

学科別に見ると、全体として、日本文化学科と文化交流学科において評価値が高く、仏教文化学科と人文学科において評価値が低い傾向が見られた。特に平均値の差が、質問 13「授業の内容は理解しやすい」では 0.71 ポイント、質問 9「視聴覚教材が効果

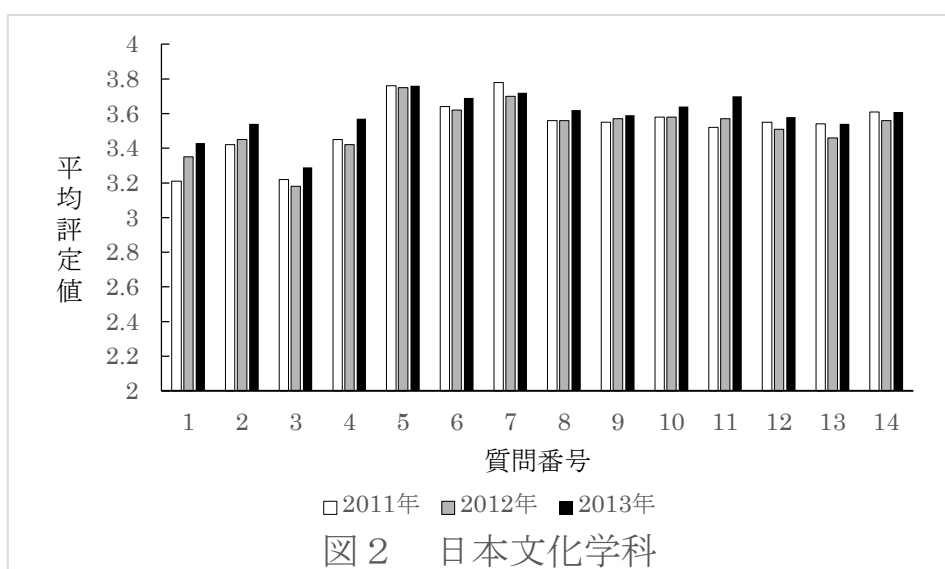
的」では 0.68 ポイント、質問 4「授業の目的を理解している」では 0.62 ポイントと比較的大きな差が見られた。

人文学科と他学科との差は、1 回生と 2 回生以上の差でもある。全体として人文学科の評価値が低いということは、新 1 回生の評価値が低いということであり、今後の教育指導において十分注意を払っていかねばならないであろう。

2. 年度別の比較

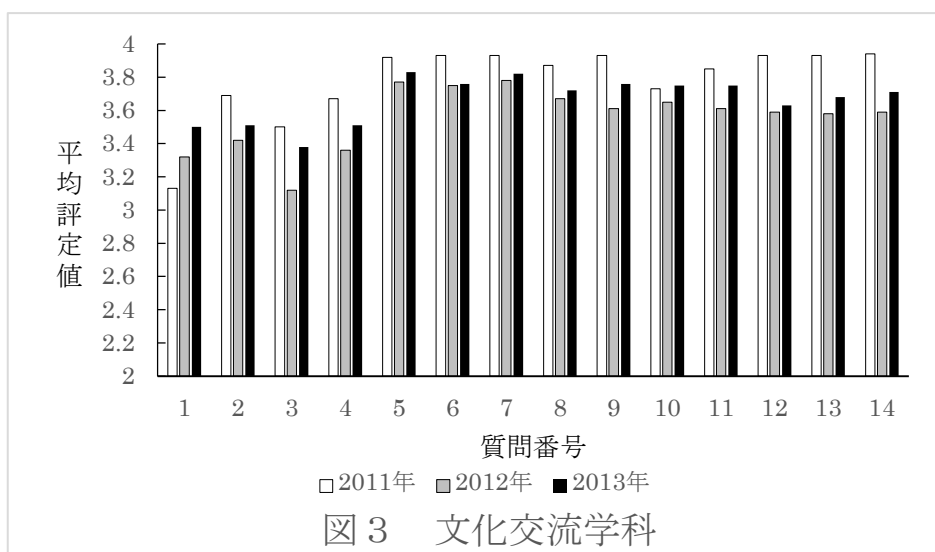
2-1. 日本文化学科

過去 3 年間の傾向は、どの質問においてもほぼ同じ評価値であるが、質問 1 と質問 2 は、年々評価値が上がり、その他の質問項目においては、わずかな差ではあるが、2013 年が一番高く、次に 2011 年、2012 年の順になっている。



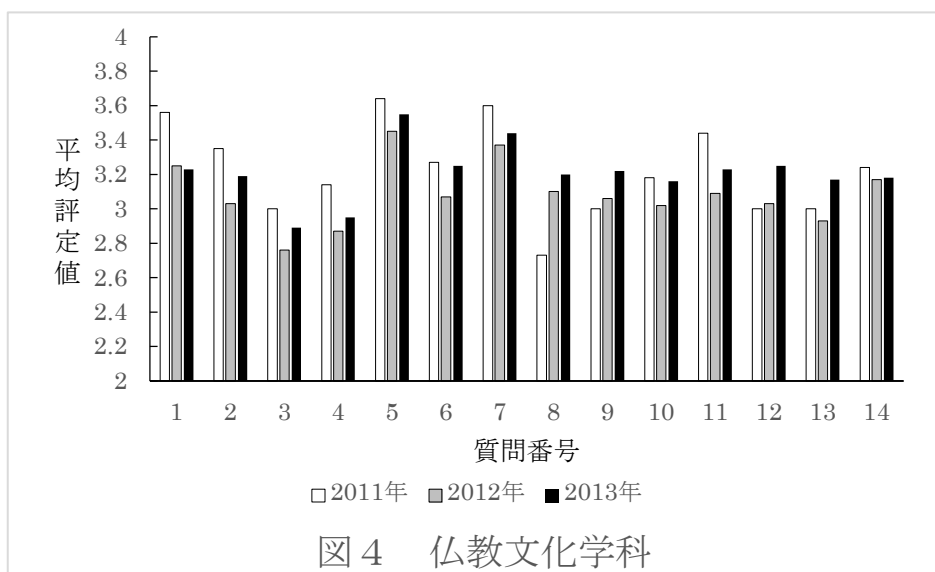
2-2. 文化交流学科

過去 3 年間の傾向は、比較的顕著に表れており、質問 1 を除けば、2011 年度がもっとも高く、2013 年度は 2011 年度よりは低いが 2012 年度よりは高いという結果が出ている。



2-3. 仏教文化学科

2013 年度が他年度より評価値が高かった質問は、質問 8、9、12、13 であり、他の質問ではいずれも 3 年間で中位である。



まとめ

3 年間の比較では、総じてさほどの差はなく、特に 2013 年度は他年度に比べ高いか中位であった。しかし、学科別には有意と言える差があった。すでに触れたが日本文化学科と文化交流学科がどの質問においても比較的高い評価値であるのに対して、仏教文化学科と人文学科は比較的低い評価値であった。とくに人文学科すなわち 1 回生の評価値が他に比べて低いことは、今後、人文学部が人文学科 1 学科に統一されていく状況の中では、その推移を注意深く見守り、対策を立てていかねばならないであろう。

表1 学科別の平均評定値

問	質 問 内 容	日本文化学科			文化交流学科			仏教文化学科			人文学科		
		2011年	2012年	2013年	2011年	2012年	2013年	2011年	2012年	2013年	2011年	2012年	2013年
1	私は休まず授業に出席している。	3.21	3.35	3.43	3.13	3.32	3.5	3.56	3.25	3.23			3.15
2	私はこの授業に熱心に取り組んでいる。	3.42	3.45	3.54	3.69	3.42	3.51	3.35	3.03	3.19			3.05
3	私は講義要項（シラバス）をきちんと読んだ。	3.22	3.18	3.29	3.5	3.12	3.38	3	2.76	2.89			2.84
4	私はこの授業の目的を理解している。	3.45	3.42	3.57	3.67	3.36	3.51	3.14	2.87	2.95			3.14
5	担当教員は熱意を持って授業している。	3.76	3.75	3.76	3.92	3.77	3.83	3.64	3.45	3.55			3.55
6	担当教員の話し方はわかりやすい。	3.64	3.62	3.69	3.93	3.75	3.76	3.27	3.07	3.25			3.3
7	担当教員は授業時間を守っている。	3.78	3.7	3.72	3.93	3.78	3.82	3.6	3.37	3.44			3.39
8	担当教員は学生主体の授業にしようとしている。	3.56	3.56	3.62	3.87	3.67	3.72	2.73	3.1	3.2			3.34
9	板書、プリントやパワーポイント、視聴覚教材が効果的に用いられている。	3.55	3.57	3.59	3.93	3.61	3.76	3	3.06	3.22			3.08
10	授業は講義要項（シラバス）に基づいて実行されている。	3.58	3.58	3.64	3.73	3.65	3.75	3.18	3.02	3.16			3.25
11	成績の評価基準が明瞭に示されている。	3.52	3.57	3.7	3.85	3.61	3.75	3.44	3.09	3.23			3.24
12	授業の内容は興味深い。	3.55	3.51	3.58	3.93	3.59	3.63	3	3.03	3.25			3
13	授業の内容は理解しやすい。	3.54	3.46	3.54	3.93	3.58	3.68	3	2.93	3.17			2.97
14	この授業に満足している。	3.61	3.56	3.61	3.94	3.59	3.71	3.24	3.17	3.18			3.14
	(平均値)	3.53	3.52	3.59	3.78	3.56	3.67	3.22	3.09	3.21			3.17

授業評価アンケート結果の分析（人間発達学部）

はじめに

同じ方式で実施された 3 年間（2012 年～2013 年度）の授業評価アンケートについて、評価の経年比較ならびに人間発達学部の学科ごとの結果について概観したい。

人間発達学部の学生は入学の時点で、子ども発達学科では保育士・教員免許、発達栄養学科では管理栄養士・栄養教諭免許の取得をほぼ全員が目指しており、これらの免許・資格を取得するために各学年に配当された多くの必修(選択必修)科目を履修し単位取得することが前提となり、Ⅰ～Ⅱ回生では講義ならびに実験・実習科目、Ⅲ～Ⅳ回生では学外(隣地)実習科目が多く配当されている点がカリキュラムの特徴である。

3 年間の授業評価値の比較

子ども発達学科ならびに発達栄養学科とも、全項目にわたり授業評価値が上昇しており、人間発達学部の両学科教員の努力が実を結びつつあると思われる。

授業に対する満足度(質問 14)との関連要因

2013 年度の結果のうち、学科別に回答者数 6 名以上の科目について、質問 14 を目的変数とし、他の 13 項目を説明変数とする重回帰分析を試みた。

【子ども発達学科】

回答者数 6 以上の科目 27 科目について分析を行なった。重相関係数は 0.94 であり、分散分析の結果からも重回帰式の予測力は統計的に 1%水準で有意であった。そして標準偏回帰係数が 5%水準で統計的に有意であったのは「授業の内容は理解しやすい(質問 13)」の 1 項目であった。

【発達栄養学科】

回答者数 6 以上の 28 科目について分析を行なった。重相関係数は 0.98 であり、分散分析の結果からも重回帰式の予測力は統計的に 1%水準で有意であった。そして標準偏回帰係数が 1%または 5%水準で統計的に有意であったのは「担当教員は授業時間を守っている(質問 7)」、「担当教員は学生主体の授業にしようとしている(質問 8)」、質「授業の内容は理解しやすい(質問 13)」の 3 項目であった。

以上の結果から、両学科とも「授業の内容は理解しやすい(質問 13)」の評価値が高いと満足度が高くなる傾向が認められた。発達栄養学科ではさらに、学生から見た教員の意識に関連する項目「教員は授業時間を守っている」「担当教員は学生主体の授業にしようとしている」の評価値が高いと満足度も高くなる傾向が認められた。

2013 年度の調査対象(基本属性)

- 1) 人間発達学部 of 調査科目数は、2013 年度は 57 科目（2011 年度 44 科目、2012 年度 57 科目）であった。
- 2) 科目区分ならびに学年区分による調査科目数を表 1、表 2 に示した。

表 1. 科目別区分 2013 年度

	科目区分別による調査科目数			
	専門基礎	専門基幹	専門研究	専門関連
子ども発達学科	2	24	1	1
発達栄養学科	2	23	1	3

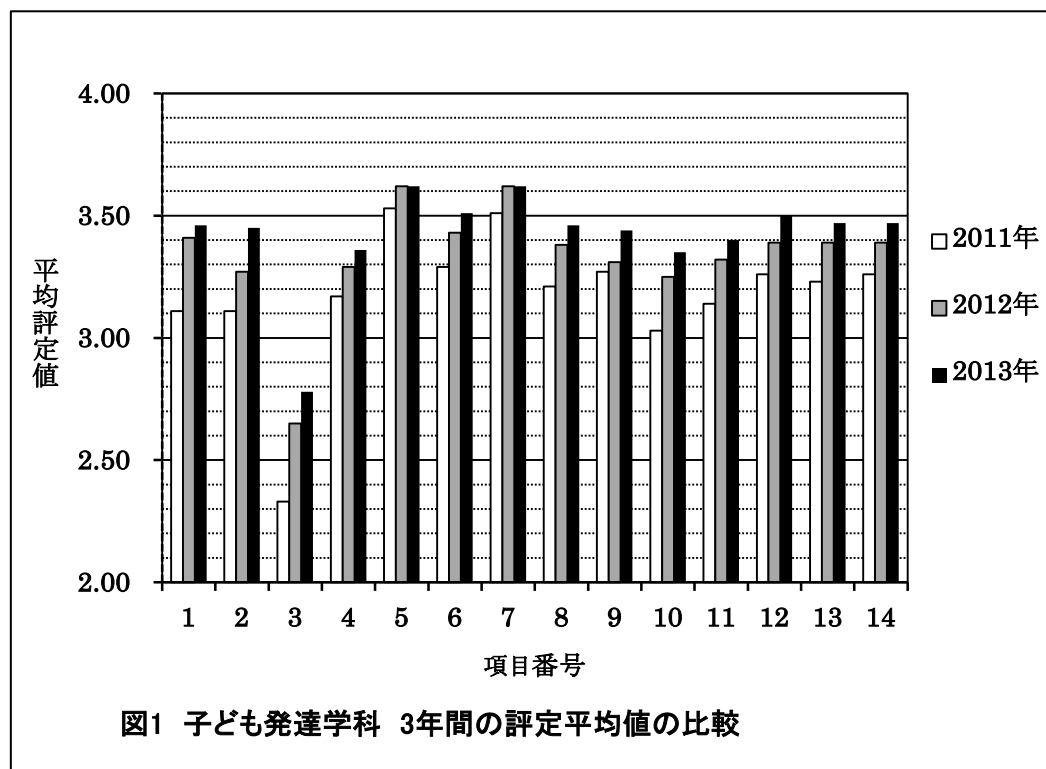
表 2. 学年別区分 2013 年度

	学年区分別による調査科目数			
	I 回生	II 回生	III 回生	IV 回生
子ども発達学科	9	9	8	2
発達栄養学科	9	12	5	3

学科別の結果

【子ども発達学科】

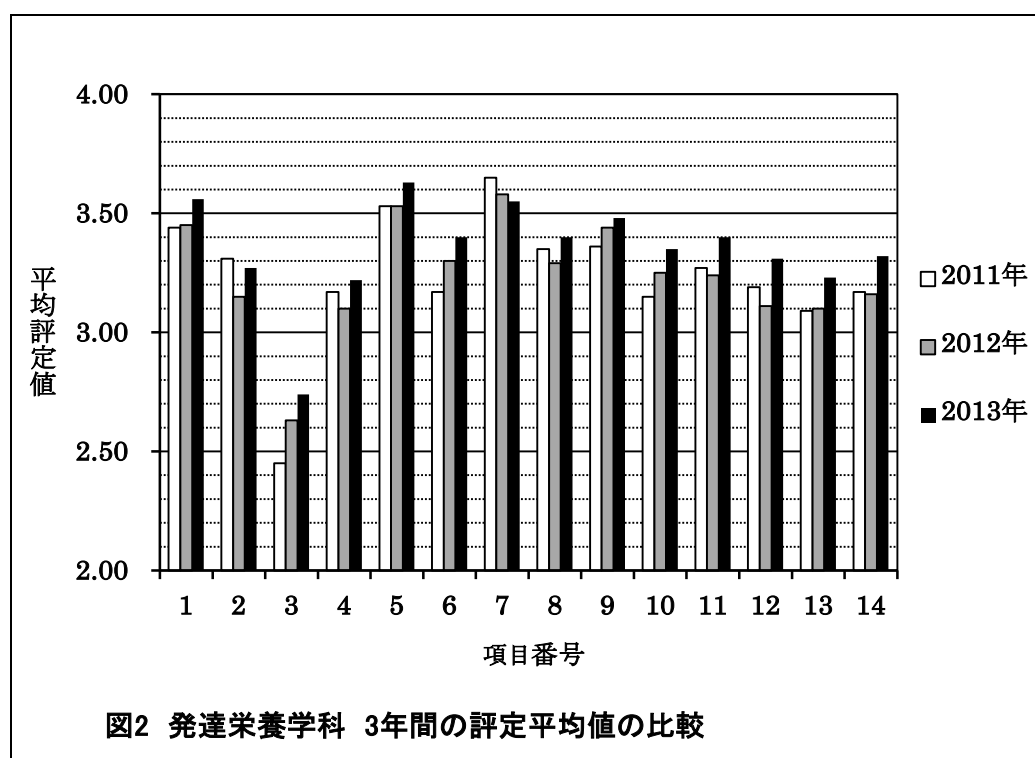
2011 年度～2013 年度の評価値の経年変化は図 1、表 3 のとおりである。



全質問項目の評価値平均(3.42)は2011年度の値(3.18)から0.24ポイント上昇した。2013年度の結果を項目別にみると、学生の意識に関連する「授業に熱心に取り組んでいる」が0.18ポイントと最も高い伸びを示している。評価値3.5以上の項目は3つあり、教員の意識に関連する「担当教員は熱意をもって授業をしている」「担当教員は時間を守っている」2項目と「授業の内容は興味深い」であった。子ども発達学科は、2011年より2012年さらに2013年へと各項目で評価値が上昇している点が特徴的である。

【発達栄養学科】

2011年度～2013年度の評価値の経年変化は図2、表3のとおりである。



全質問項目の評価値平均(3.35)は2011年度の値(3.11)から0.24ポイント上昇した。発達栄養学科では14項目中13項目で評価値が上昇した。評価値3.5以上の項目が3つあり、学生の意識に関連する「休まずに授業に出席している」と教員の意識(学生からみた)に関連する「担当教員は熱意をもって授業をしている」「担当教員は時間を守っている」の2項目であった。「教員は授業時間を守っている」は2011年、2012年と評価が下がる傾向を示した。その原因を探ると共に改善に向けての取り組みが望まれる。2011年、2012年とあまり変動のなかった項目(質問1, 8, 11～14)の評価値が、2013年度に上昇しており、全体としては、発達栄養学科で授業改善が進行しているものと考えられる。

まとめ

人間発達学部では子ども発達学科、発達栄養学科とも、全体に評価値が上昇しており、3年間の取り組みが成果を上げつつあると捉えられる。もちろん、調査対象者や科目にばらつきがあり、また授業形態別(講義か実験/実習/演習かなど)の分析も必要ではあるが、大まかには今後の授業改善の一助となる結果が得られたと思われる。

しかし、全学的にも最も低い評価値を示す「シラバスをきちんと読んだ(質問 3)」は、人間発達学部において若干の改善が認められるものの、学科平均値との大きな開き(0.6 ポイント程度)がある。人間発達学部の学生は公的な免許・資格取得を大きな目的(目標)と捉え出席を重視しているが、個別の授業が何のために必要なのかその目的を理解する事に関心が低いように見受けられる。教員側は、シラバスでの目的や到達目標を簡潔明瞭に表現し学生が理解しやすくなる工夫や、関連する教科間で連携を図って改善に取り組むことがさらに必要かもしれない。学年が上がるにつれてきちんと読む学生が増えていくのか、授業形態との関連性等より詳細な分析も必要と思われる。この項目を改善するには、教員個々人の努力と同時に、FD活動も含めて全学的な取り組みが不可欠と思われる。

3年間の結果から概観すると、授業改善を図る上で授業評価アンケートの実施時期(前・後期)の他、調査時期(授業開始直後と終了前)、設問項目、分析方法などについてさらに見直し検討される事が重要である。

表3 人間発達学部における評価値の比較

項目 番号	質 問 内 容	子ども発達学科			発達栄養学科		
		2011 年	2012 年	2013 年	2011 年	2012 年	2013 年
1	私は休まず授業に出席している。	3.11	3.41	3.46	3.44	3.45	3.56
2	私はこの授業に熱心に取り組んでいる。	3.11	3.27	3.45	3.31	3.15	3.27
3	私は講義要項(シラバス)をきちんと読んだ。	2.33	2.65	2.78	2.45	2.63	2.74
4	私はこの授業の目的を理解している。	3.17	3.29	3.36	3.17	3.10	3.22
5	担当教員は熱意を持って授業している。	3.53	3.62	3.62	3.53	3.53	3.63
6	担当教員の話し方はわかりやすい。	3.29	3.43	3.51	3.17	3.30	3.40
7	担当教員は授業時間を守っている。	3.51	3.62	3.62	3.65	3.58	3.55
8	担当教員は学生主体の授業にしようとしている。	3.21	3.38	3.46	3.35	3.29	3.40
9	板書、プリントやパワーポイント、視聴覚教材が効果的に用いられている。	3.27	3.31	3.44	3.36	3.44	3.48
10	授業は講義要項(シラバス)に基づいて実行されている。	3.03	3.25	3.35	3.15	3.25	3.35
11	成績の評価基準が明瞭に示されている。	3.14	3.32	3.40	3.27	3.24	3.40
12	授業の内容は興味深い。	3.26	3.39	3.50	3.19	3.11	3.31
13	授業の内容は理解しやすい。	3.23	3.39	3.47	3.09	3.10	3.23
14	この授業に満足している。	3.26	3.39	3.47	3.17	3.16	3.32
	(平均値)	3.18	3.34	3.42	3.24	3.24	3.35

(文責 太田美穂)

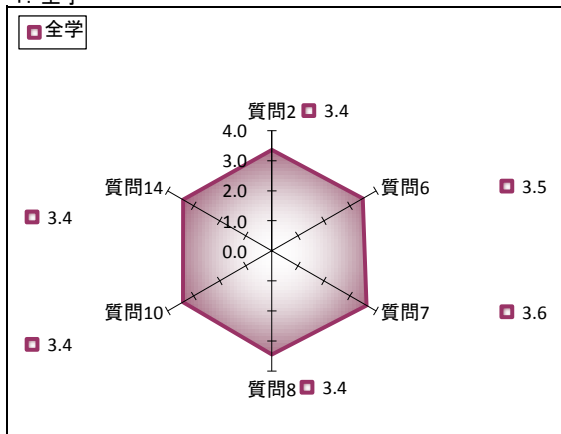
授業評価アンケート調査結果 グループ平均一覧

	基礎・共通	発達栄養学科	留学生	音楽学科	日本文化学科	子ども発達学科	文化交流学科	資格関係	人間心理学科	音楽マネジメント学科	仏教文化学科	人文学科	社会デザイン学科
問1	3.34	3.56	3.78	3.49	3.43	3.46	3.50	3.40	3.34	3.27	3.23	3.15	3.00
問2	3.27	3.27	3.89	3.50	3.54	3.45	3.51	3.16	3.25	3.31	3.19	3.05	3.00
問3	2.80	2.74	3.68	3.19	3.29	2.78	3.38	2.51	2.81	2.88	2.89	2.84	2.86
問4	3.23	3.22	3.86	3.61	3.57	3.36	3.51	3.19	3.19	3.38	2.95	3.14	3.43
問5	3.59	3.63	4.00	3.87	3.76	3.62	3.83	3.58	3.51	3.60	3.55	3.55	3.71
問6	3.40	3.40	3.97	3.75	3.69	3.51	3.76	3.36	3.00	3.32	3.25	3.30	3.71
問7	3.61	3.55	3.97	3.82	3.72	3.62	3.82	3.63	3.48	3.46	3.44	3.39	3.86
問8	3.26	3.40	3.95	3.72	3.62	3.46	3.72	3.29	3.38	3.54	3.20	3.34	3.86
問9	3.37	3.48	3.90	3.62	3.59	3.44	3.76	3.42	3.14	3.45	3.22	3.08	3.83
問10	3.35	3.35	3.86	3.68	3.64	3.35	3.75	3.25	3.26	3.28	3.16	3.25	3.83
問11	3.35	3.40	3.92	3.64	3.70	3.40	3.75	3.21	3.33	3.40	3.23	3.24	3.86
問12	3.23	3.31	3.75	3.67	3.58	3.50	3.63	3.25	3.37	3.34	3.25	3.00	3.57
問13	3.22	3.23	3.89	3.64	3.54	3.47	3.68	3.12	2.95	3.27	3.17	2.97	3.71
問14	3.27	3.32	3.86	3.68	3.61	3.47	3.71	3.21	3.14	3.30	3.18	3.14	3.57
平均値	3.31	3.35	3.88	3.63	3.59	3.42	3.67	3.26	3.22	3.34	3.21	3.17	3.55

授業評価アンケート調査結果 グループ平均一覧(レッスン)

	声楽専門	皿群	ピアノ専門	創作演奏専門	オルガン専門	管弦打楽器専門	古楽器専門	作曲専門
問1	3.64	3.51	3.86	3.62	3.00	3.85	3.00	3.57
問2	3.89	3.81	3.96	3.92	3.00	3.93	3.00	3.71
問3	4.00	3.67	3.84	3.92	4.00	3.91	3.00	3.43
問4	3.64	3.15	3.47	3.31	3.00	3.35	2.50	3.43
問5	4.00	3.86	3.96	3.85	4.00	3.92	4.00	3.71
問6	4.00	3.86	3.94	3.85	4.00	3.91	4.00	3.86
問7	4.00	3.88	3.94	3.77	4.00	3.95	4.00	3.71
問8	4.00	3.91	4.00	3.77	4.00	3.97	4.00	3.71
問9	3.93	3.91	3.98	3.69	4.00	3.85	4.00	3.86
問10	3.93	3.86	3.98	3.85	4.00	3.83	4.00	3.86
問11	4.00	3.78	3.96	3.69	4.00	3.94	4.00	3.86
問12	3.96	3.72	3.92	3.77	4.00	3.86	4.00	3.86
平均値	3.92	3.75	3.90	3.75	3.75	3.85	3.63	3.71

1. 全学



*グラフの各項目

受講生の自己評価

質問2「私はこの授業を熱心に取り組んでいる」

教員に対する評価

質問6「担当教員の話し方はわかりやすい」

質問7「担当教員は授業時間を守っている」

質問8「担当教員は学生主体の授業に仕様としている」

質問10「授業は講義要項（シラバス）に基づいて実行されている」

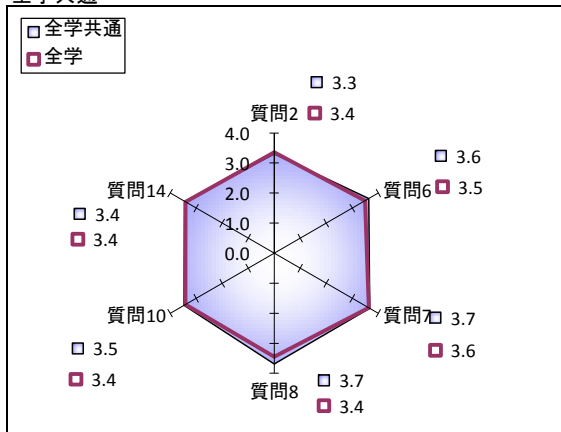
全体的評価

質問14「この授業に満足している」

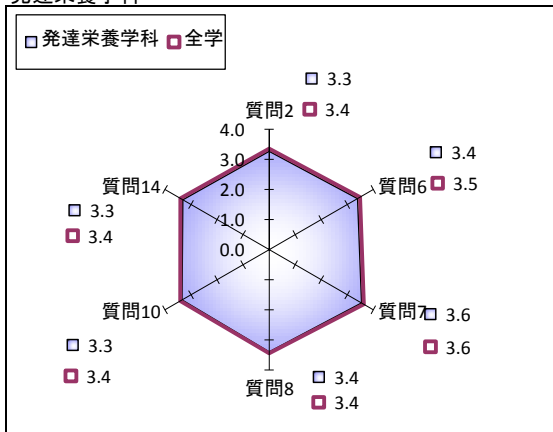
*得点換算

そう思う：4点
 ややそう思う：3点
 あまりそう思わない：2点
 そう思わない：1点

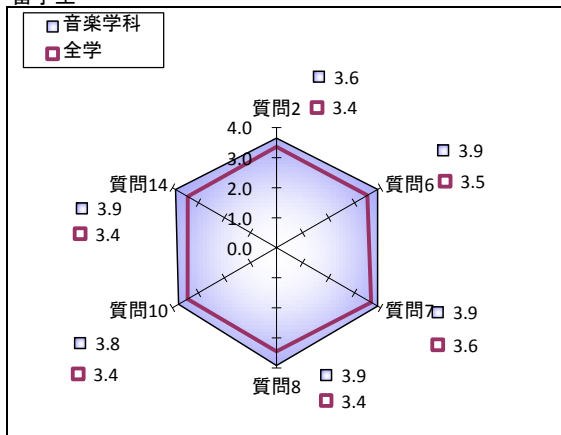
2. 各学部 全学共通



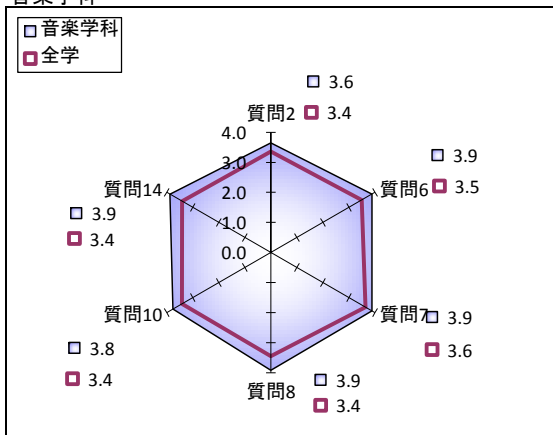
発達栄養学科



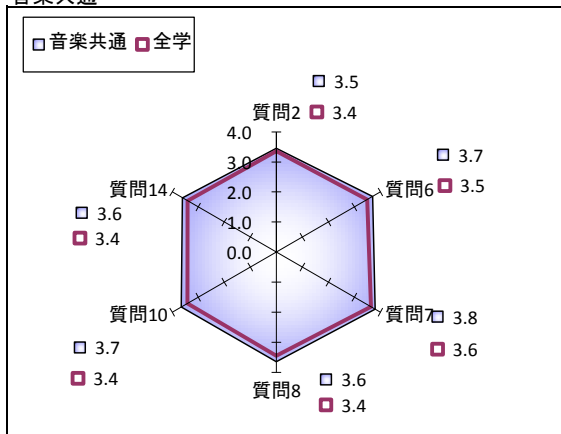
留学生



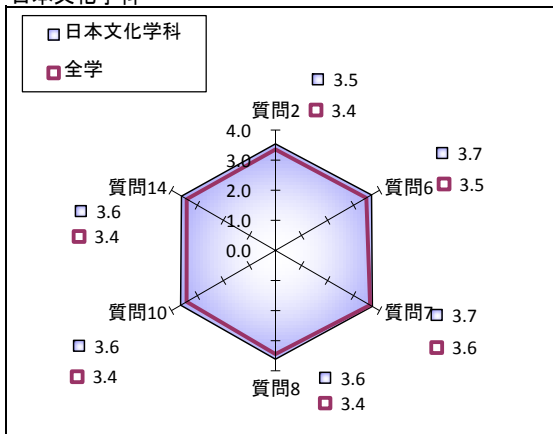
音楽学科



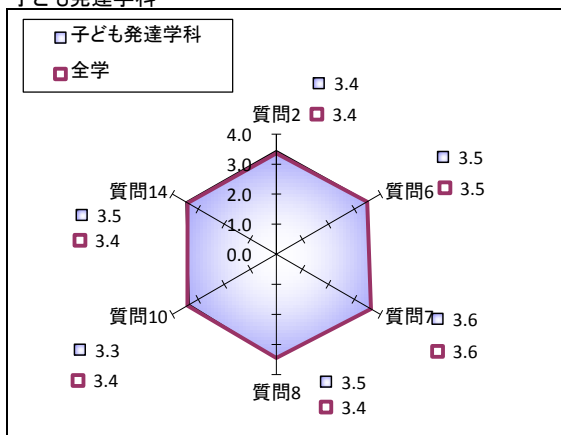
音楽共通



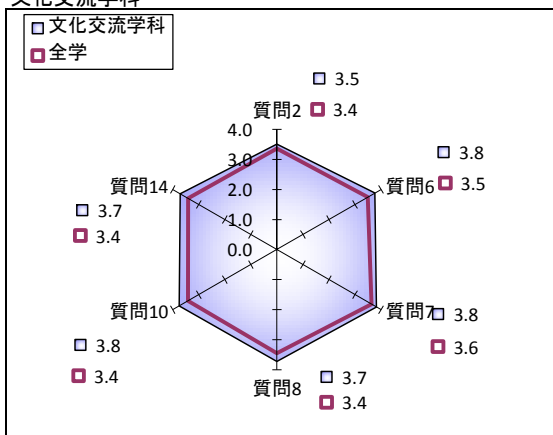
日本文化学科



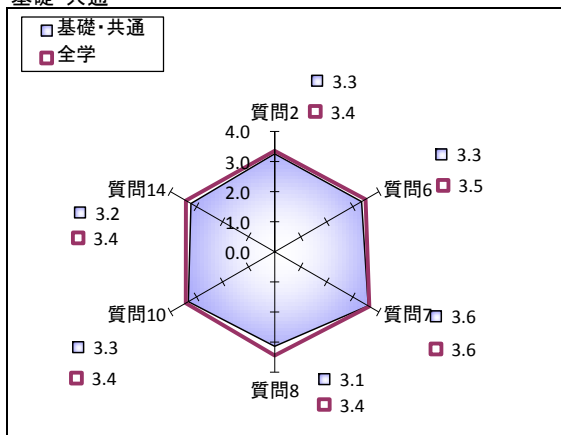
子ども発達学科



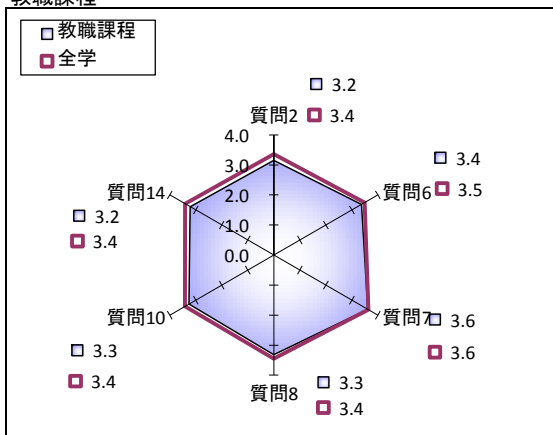
文化交流学科



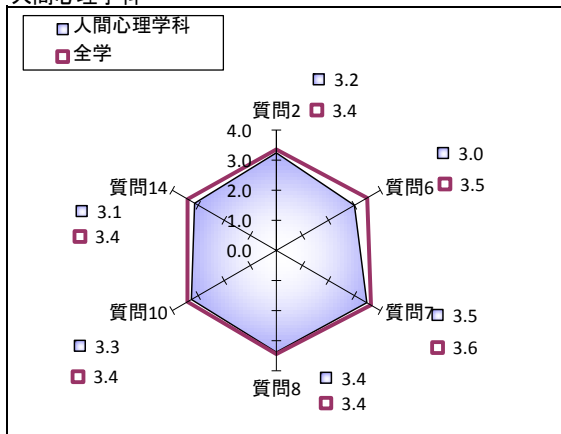
基礎・共通



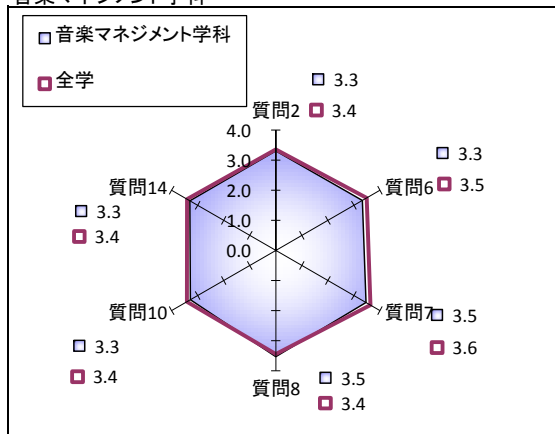
教職課程



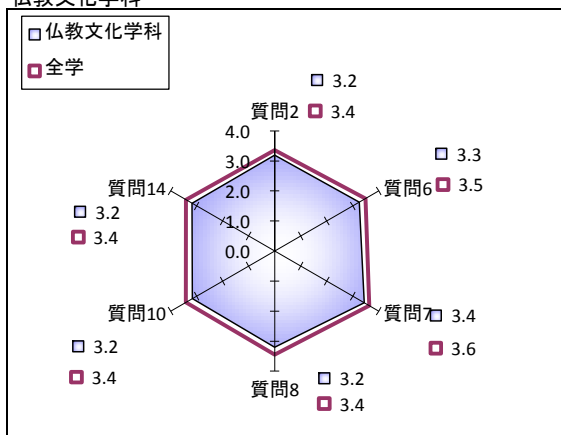
人間心理学科



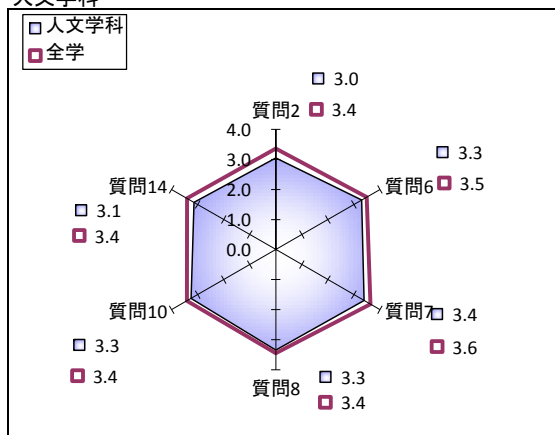
音楽マネジメント学科



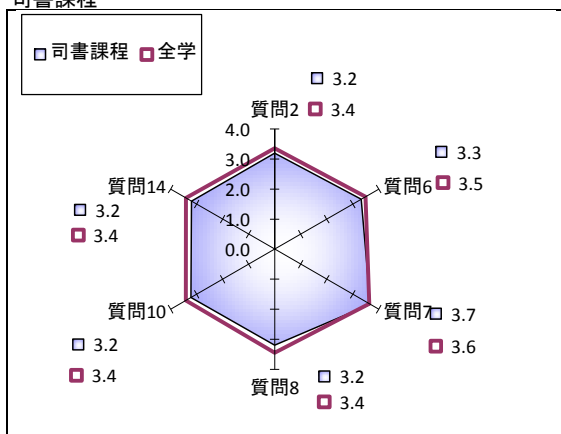
仏教文化学科



人文学科



司書課程



社会デザイン学科

